

The Japanese Weekend School of New Jersey

# NJ 補習校だより

平成 19 年 11 月 24 日(土) 第 335 号

本校の授業料等について

毎年この時期から、来年度の予算案の作成が始まっています。保護者の皆様からお預かりする授業料等がどのように決まり、また使われているのか書いてみます。

本校は、ニューヨーク教育審議会の下にある2つの日本人学校と2つの補習授業校の1つです。ところが、兄弟である各校で授業料はそれぞれ異なって設定されています。これは、各校の単年度毎の収支決算の予測や学校の実態に基づいて決定されるためです。

本校の場合、(大きな特徴でもありますが)幼児部から高等部まで5時間授業を実施しております。また、幼児部は各学級にアシスタントが付き2名の指導体制としております。初等部の入門期(1~3年)にはきめ細かい指導を狙って20人程度の定員としています。4年生~高等部は25人です。

NY 補習校は幼・初等部は午前中授業です。ですから、初等部の指導教科は国語と算数です。逆に中高等部は6時間授業で理科の授業もあるようです。また年間授業回数は45回のように。学級の定員はほぼ同様ですが、幼児部のアシスタント制は年中のみです。その結果、保護者の負担する授業料について、単純比較が難しくなっていますが、保護者の送迎の負担を考えると NJ スタイルがベターと考えます。こうして兄弟補習校である NY 補習校と比べましても、それぞれに長短があり、また借用料も各校で様々です。また参考までに、日本人学校の場合は、基本的に政府派遣の教員が授業を行いますので、人件費の割合は低く抑えることが可能です。(政府派遣教員は審議会の負担となりません。)

本補習校は、入学金や授業料収入以外に、日本政府から毎年校舎借用料の半分(本年度は約7万ドル)と初等・中等部の担任の先生方の給与の一部(本年度は約6万ドル)が補助されています。これは日本政府が、基本姿勢として義務教育段階の子ども達の教育を支援することを目的としているためです。本校の派遣教員2名(校長と教頭)もそのための配置とされています。幼児部と高等部に比べて義務教育段階の授業料が低く抑えられていることが了解いただけだと思います。こうした補助に加えて NY 日本人教育審議会から赤字分を補填され本校が運営されています。また、本校の授業は、年間計画に基づいて3月の授業終了時まで、それぞれの学年で必要な学習内容を押さえられるようカリキュラムに基づいて実施されており、単位時間あたりの受講料計算(授業料÷5時間÷42回)の結果ではありません。

本年度の収支の見込みでは、約6万ドルの赤字です。これは、1月に始まった補習校移転問題が影響して新入・転入生の見通しがずれたことに起因します。来年度については、授業料の教育物価指数程度の値上げが予想されています。それでも赤字と予測される予算案ですが、将来を担う日本の子ども達への投資として審議会に承認いただこうと考えております。審議会で正式に決定されましたら、会長名のお知らせが配布されます。最後に、これからも本校に通う子ども達の教育を第一に考えて安心でき信頼される補習校であるよう努めてまいります。

※ 本校の移転問題について : 従来のパラマス校との単年度契約から複数年契約に切り替え、現在は2009年の6月まで継続使用できます。その後も、長期契約の更新が可能であるよう関係改善に努めております。詳細は HP の校舎移転関連からご欄いただけます。